

得意分野の本業で モンゴル進出

賛光精機株式会社



製品（総削り出し加工製品）

株式会社賛光精機は、主に、マシニングセンター（NC機械）を使用して、空気圧機器、コピー機、半導体製造装置、ロボット機器などの精密部品加工を行っている。品質と環境の国際基準をクリアして、小さいけれどもしっかりした堅実企業で、得意先からも重要部品加工を任せられ、信頼されている。

モンゴルからの研修生がきっかけ

同社は、過去3名のモンゴル研修生を受け入れ、そのIQの高いことや、勤勉で向上心が強いことから、将来このような人材を事業に生かしたいと考えていた。

2004年7月、同社の清水社長は、元社員だったモンゴルの友人に招かれて、初めてモンゴルを訪問、その国の様子を見て、モンゴルに役に立つような事業を展開したい、とより強く思うようになった。日本の4倍と、広い国土に鉄道が1本しかないモンゴルの状態では、自動車が一番重要な交通手段と思われ、しかしその一方で、個人の収入が少ない（20,000円/月）ことから、同社社長は、需要が高いと思われる中古車販売・修理の事業を始めたいと考え、当機構のアドバイスを申し込んだ。

現地調査の実行を急ぐ

これを受け、同社の事業内容や新たな事業計画の具体的な内容をじっくり確認・把握したうえで、まずは現地を調べてみて、その上で方針を決めることが重要であることなどを指摘した。

その後、現地アドバイス制度を活用し、現地へ同行して、アドバイスを提供することになった。

現地では、日本大使館、モンゴル産業通商省局長、同省傘下の外資担当所長、などと面談。また、現地の修理工場や大手中古車販売店を訪問し、さらにはモンゴル国立科学技術大学学長、機械工学部の学部長、現地の数少ない日本商社とも面談した。同時に、現地の弁護士や会計士にも会い、モンゴルの労働条件、賃金、税金、習慣等の情報を得た。

部品加工に方針変更

この現地訪問を受けて同社に示唆したのは次の点である。

①計画上では中古車の販売・修理と中古コピー機・プリンターの販売・修理で事業を始め、5年先位に同社の本業である精密部品加工事業を実施することとなっているが、中古関連事業は難しい面が多く、賛光精機にとっては、得策でない。本業のロボット部品の製造を前倒して実施することを検討してみるのが良いと思われる。機械と材料を日本から持込み、モンゴルでは勤勉で優秀な作業員を雇用、モンゴルで製造し、その製品は全量日本に輸出する。この方式は、モンゴル政府で高く評価されるはずである。

②日本企業があまり進出していない当地で、本件事業を推進するにあたっては、この事業を親身にサポートしてくれる現地の有力な人や機関との親密な関係作りが重要で、モンゴル政府機関、現地企業、土地建物の所有者、弁護士、会計士、銀行等との付き合い方を考慮する必要



現地工場で使用している機器（MV4B）

がある。

清水社長は、このアドバイスを適切と判断し、これまでの方針を変えて、初めから精密部品加工事業を始めることにした。

現地会社設立と稼働開始

2005年1月、「モンゴルジャパンサンコウCo. Ltd」を設立した。設立にあたっては、モンゴル国立科学技術大学と、生産加工方式・4S活動の学生指導などといった技術協力に関して提携し、学校内敷地・建物の提供も受けて、そこを工場とすることとなった。

また、優秀な学生採用にも同大学の協力を得ることができた。当社が採用したエンジニア4名とモンゴル国立科学技術大学教授1名の計5名に対して3ヶ月間、日本において研修教育を実施している。

同社の清水社長は、「モンゴルでは、数人の日本人経営者が独自で色々調査しており、皆同じような問題（会社の登記、法律、会計（税金）、輸出、輸入、社員教育等）を抱えて、その国に合わせたやり方を探すのに長い時間と手間をかけて情報を集めているが、そのほとんどが、事業の実現までに、手間取っている状況であった。中小機構に現地での同行調査を依頼して、現地における調査を開始したが、まずモンゴル日本国大使館を訪ね、大使、領事、現地日本商社所長からモンゴルの事情を聞き、次にモンゴル政府各省の局長やFIFTAの所長、弁護士、モンゴルの有力な会社から情報を入手することなどについて、同行のアドバイザーが教えてくれた。さらに、自分の体験談を交えて、わかりやすく海外進出の要諦を話してくれ、これが非常に参考になった。」と語り、「モンゴル現地での同行アドバイスによりこの海外展開が大きく前進した」と振り返っている。

同9月には、同現地会社にモンゴルとして初めてマシニングセンターを設置し、稼働が始まった。2006年1月には、第二工場としてソングン工場の工事を開始した。

専門員の視点

「機械・材料を日本から持込み、モンゴルで製品を製造して、日本に輸出する。現地エンジニアを日本で技術研修し、その後現地での加工製造に注力させる。」この方式は、モンゴル政府でも評価が高く、この線に沿った本事業は、成功の確率が高いと思われる。清水社長のしっかりとした経営哲学と本業のロボット部品製造事業に注力することにした英断は、高く評価される。

賛光精機株式会社

(日本本社)
所在地 : 埼玉県本庄市
代表者名 : 清水崇司
業種 : 製造業
事業内容 : アルミ精密部品加工
創業年 : 昭和39年(1964年)
従業員数 : 64名
資本金 : 6800万円
年間売上高 : 72000万円

(海外現地法人)
企業名 : モンゴルジャパンサンコウCo.Ltd
所在国 : モンゴル
地域 : ウランバートル市
事業内容 : アルミ精密部品加工
創業年 : 2005年1月
従業員数 : 7人
資本金 : 29000US\$
投資形態 : 独資
年間売上高 : 1200万円

同3月現在、モンゴルエンジニアの日本での教育（3ヶ月）修了者は、合計11名となった。同社は、これを今後も続け、そして、今後もさらに現地に技術を植え付けることを徹底する計画である。

(経営支援専門員 星野 達哉)



主要設備（横型マシニングセンター）